

慶應大阪シティキャンパス 夕学サテライト講座 〈 2016 年度前期 〉 サテライト 受信スケジュール

慶應大阪シティキャンパス「夕学サテライト講座」は、東京丸の内シティキャンパス（慶應 MCC）で行う定例講演会「夕学五十講」のうちの一部講演を、インターネット回線を通じてライブ中継により、リアルタイムで受講するものです。2016 年度前期は 15 講演受信いたします。

2016/ 3/ 7（月）11:00 より申込受付開始（Web / Fax）

時 間：18:30～20:30（開場 18:00） 会 場：慶應大阪シティキャンパス（KOCC）

講座料：全 15 講演一括申込 20,000 円、 個別申込 1 講演@1,500 円*

※個別申込は、一度のお申込枚数 5 枚につき 500 円割引制度有。

* 下記は 2016/2/26 現在調整中の予定です。事情により講演者・日程等が変更となる場合がありますことをご了承ください。

1. 講演スケジュール（全 15 講演）		開催日・講師名・タイトル	主催：慶應学術事業会
① 4/13 竹中 平蔵 歴史の名言から未来を読む	⑥ 5/31 山岸 俊男 安心社会から信頼社会へ	⑪ 6/30 原 晋 東京リビックに向けての陸上改革	
② 4/14 楠木 建 長期利益の源泉を考える： オポチュニティとクオリティ	⑦ 6/2 石坂 典子 自然と地域が共生を目指す ～共に育み、共に栄える、100 年先の 企業づくり～	⑫ 7/1 鎌田 浩毅 日本列島に迫り来る火山と地震の 危機 –「大地変動の時代」を生き延びる–	
③ 4/19 山本 昌 継続する心	⑧ 6/8 高田 朝子 女性マネージャーを育む、活かす、 押し上げる	⑬ 7/8 小松 和彦 日本の妖怪文化 –その歴史と特徴–	
④ 4/27 山根 節 なぜあの人は経営のプロと呼ばれる のか？	⑨ 6/16 荒木 香織 ラグビー日本代表チームを変えた メンタルコーチ	⑭ 7/13 一條 和生 実践経験を通じて培った実践知と しての「リーダーシップの哲学」 –リーダーシップ・ジャーニーを歩むために–	
⑤ 5/27 姜 尚中 悪との向き合い方	⑩ 6/20 塩沼 亮潤 いつも明るい心で生きて行く	⑮ 7/28 名和 高司 CSV 経営 –高収益と社会問題の同 時解決を目指す	

■4 月 13 日（水） <相克は越えられるのか>

竹中 平蔵（たけなか へいぞう） 慶應義塾大学総合政策学部 教授・グローバルセキュリティ研究所 所長
「歴史の名言から未来を読む」

「愚者は経験に学ぶ、賢者は歴史に学ぶ」。あの偉人は如何にして困難な時代を乗り越えたのだろうか。内外の偉人の人生経験や名言を味わうことで、本質を見極め、来るべき未来を読む力を養いたい。最新トピックから古典まで分かり易い言葉で語る竹中流・温故知新の 90 分。

1973 年に一橋大学経済学部卒業後、日本開発銀行入行。同設備投資研究所、ハーバード大学、ペンシルバニア大学客員研究員、大蔵省財政金融研究室主任研究官、大阪大学経済学部助教授、慶應義塾大学総合政策学部助教授を経て、1996 年同大学教授に就任。経済財政政策担当大臣、金融担当大臣を兼任後、経済財政政策・郵政民営化担当大臣、総務大臣兼郵政民営化担当大臣を歴任。2006 年より現職。昨年、『400 年の流れが 2 時間でざっとつかめる教養としての日本経済史』『不安な未来を生き抜く知恵は、歴史名言が教えてくれる 「明日を変える力」を磨く 55 の言葉』と、歴史からの学びにフォーカスをあてた書籍を次々と発刊した。

■4 月 14 日（木） <見たことのない時代を拓く>

楠木 建（くすのき けん） 一橋大学大学院国際企業戦略研究科 教授

「長期利益の源泉を考える：オポチュニティとクオリティ」

洋の東西、時代の今昔を問わず経営のゴールは長期利益にある。経営戦略論の論客楠木教授が、外部環境の機会に利益の源泉を求める「オポチュニティ企業」と独自価値の創造に重きを置く「クオリティ企業」を対比し、これからの日本の企業の競争戦略の指針を提示する。

1992 年に一橋大学大学院商学研究科博士課程修了。2010 年より現職。専攻は競争戦略とイノベーションで、ボッコーニ大学（イタリア、ミラノ）、マギル大学（カナダ、モントリオール）、ミシガン大学（アメリカ、アナーバー）といった

海外のビジネススクールでも客員として講義を担当。著書『ストーリーとしての競争戦略』は本格的経営書として異例のベストセラーとなった。趣味は読書で、読書記録をtwitter (@kenkusunoki) で公開中。

■4月19日（火） <くしなやかに生きる>

山本 昌（やまもと まさ） スポーツコメンテーター

「継続する心」

ドラゴンズ一筋にプロ生活 32 年。41 歳でのノーヒットノーラン、43 歳での 200 勝達成をはじめ、数々の史上最年長記録を更新した球界のレジェンド。中年の星と称された山本氏が、成果を出すために、自分の身体と精神に向き合い、確立した自己マネジメント手法を熱く語る。

1984年ドラフト5位で中日ドラゴンズに入団。以来、中日ドラゴンズ一筋で3度の最多勝に輝き、1994年には沢村賞を受賞。50才まで現役投手として活躍し、在籍年数はプロ野球史上最長記録となる。2006年のノーヒットノーラン、2008年の通算200勝をそれぞれ史上最年長で達成し、史上最年長先発の記録など、数々の最年長記録を樹立した。「中年の星」と称されたその生き様から、沢山の学びのヒントが得られるのではないかと期待したい。

■4月27日（水） <経営の筋力と弾力>

山根 節（やまね たかし） 早稲田大学大学院 教授（ビジネススクール）、慶應義塾大学 名誉教授

「なぜあの人は経営のプロと呼ばれるのか？」

「日本企業の弱点は経営トップにある」「日本の経営者は経営をしていない」と言われるが、我が国にも、少ないながらも経営のプロと目される人たちがいる。実務家から研究者に転身し合計 40 年以上のキャリアを重ねる山根教授が、事例を通して経営者の役割を解説する。

公認会計士。コンサルティング会社代表から、慶應義塾大学大学院経営管理研究科・ビジネススクール助教授に転身し、米国スタンフォード大学客員研究員を経て、2001年教授就任。2014年3月慶應義塾大学を定年退職（名誉教授）し、2014年4月から現職。RJCカーオブザイヤー選考委員、経済産業省「子育て支援サービス産業研究会」座長ほか公職を多数務める。この春『なぜあの人は経営のプロといわれるのか？（仮タイトル）』刊行予定。これまでの研究を通しての知見から、「経営のプロ」について読み解く。

■5月27日（金） <変わりゆく神話をめぐって>

姜 尚中（かん さんじゅん） 東京大学 名誉教授、熊本県立劇場 館長

「悪との向き合い方」

人間関係の希薄化と閉塞感が漂う社会の中で空虚になった心に悪という病が宿り増殖していく。一方では悪を憎む心の奥で、人は社会との繋がりを求めている。国内外で続発する凶悪事件や憎悪の連鎖を目の当たりにするいま、姜教授と内なる感情との向き合い方を考えたい。

1950 年熊本県熊本市に生まれる。早稲田大学大学院政治学研究科博士課程修了。国際基督教大学助教授・準教授、東京大学大学院情報学環・学際情報学府教授、聖学院大学学長などを経て、現在東京大学名誉教授。テレビ・新聞・雑誌などでも幅広く活躍。再登壇を熱望される多くの皆様の声を受け、4年半ぶりの登壇。最新刊『悪の力』にちなんだお話を伺う。

■5月31日（火） <経営の筋力と弾力>

山岸 俊男（やまぎし としお） 一橋大学大学院国際企業戦略研究科 特任教授

「安心社会から信頼社会へ」

集団主義的で信頼社会の日本、自己優先で個人主義のアメリカ。我々の思い込みは日米での調査・実験結果で大きく覆った。ムラ的社会のしがらみから得られる安心を信頼と取り違えてはいけない。山岸教授が安心、信頼社会を解説、日本が真の信頼社会へ移行すべき理由を説く。

1970年一橋大学社会学部卒業。1981年ワシントン大学で、Ph.D. 取得。その後、北海道大学文学部助教授、ワシントン大学社会学部助教授、北海道大学文学部教授、同大学大学院文学研究科教授、玉川大学脳科学研究所教授、東京大学進化認知科学研究センター特任教授を歴任。2014年4月より、現職。社会的ジレンマの研究で広く知られる。2013年度の文化功労者。

■6月2日（木） <見たことのない時代を拓く>

石坂 典子（いしざか のりこ） 石坂産業株式会社 代表取締役

「自然と地域が共生を目指す～共に育み、共に栄える、100 年先の企業づくり～」

「産廃銀座」が各国から視察が訪れる里山に生まれ変わり、経営の透明化で地域の住民に受け入れられる存在に成長した。現代社会に不可欠なのに嫌われ、虚偽のマスコミ報道から経営危機に陥った産廃企業の経営を受

け継ぎ、再生を果たした石坂社長がその軌跡を語る。

経済産業省の「おもてなし経営企業選」に選ばれた異色の産業廃棄物処理会社、石坂産業を率いる石坂典子社長。周辺の農作物がダイオキシンで汚染されているとの報道を機に、産業が批判の矢面に立たされたことに憤慨。創業者である父親に直談判し、2002 年社長に就任。埋め立てるのではなく、リサイクルするための技術力や処理能力を独自開発し、徹底した“見える化対策”を敢行。97%減量化・リサイクルを実現し、産業廃棄物の中間処理業のイメージを 10 年で一変させた。「社員が自分の子供も働かせたい」と言える企業を目指し、女性の感性と斬新なアイディアで産業廃棄物業界を変革する経営に取り組んでいる。

■6 月 8 日（水）　＜経営の筋力と弾力＞

高田 朝子（たかだ あさこ）　法政大学経営大学院イノベーション・マネジメント研究科 教授

「女性マネージャーを育む、活かす、押し上げる」

政府の掛け声とは裏腹に、ビジネスの現場では女性達が昇進したがないという声を聞く。一方で女性達からは、会社は男性と同じ振る舞いを女性に求めているだけだという不満も生まれている。気鋭の経営学者高田教授が女性マネージャー育成の課題と具体的な方策を説く。

立教大学経済学部経済学科卒業。米サンダーバード国際経営大学院国際経営学修士（MIM）。慶應義塾大学大学院経営管理研究科経営学修士（MBA）、同博士課程修了。経営学博士。モルガン・スタンレー証券会社に勤務後、高千穂大学経営学部専任講師、助教授、法政大学経営大学院イノベーション・マネジメント研究科准教授を経て、2010 年より現職。専門は組織行動、リーダーシップ、経営組織。一般企業の勤務経験もある女性研究者の高田先生だからこそ、理想論だけではなく、説得力の高い講演が期待される。

■6 月 16 日（木）　＜経営の筋力と弾力＞

荒木 香織（あらき かおり）　兵庫県立大学環境人間学部 准教授

「ラグビー日本代表チームを変えたメンタルコーチ」

昨年のW杯で強豪南アを倒し、世界を熱狂させたラグビー日本代表。その陰には、選手と気さくに接しながらチームを支えたメンタルコーチがいた。日本ではまだ少数派のスポーツ心理学で大きな成果を出した荒木准教授がエピソードも交え自律的メンタルマネジメントを語る。

京都市生まれ。中学生から社会人 1 年目まで陸上競技 100m・200m を専門とし、インターハイ、国体、インカレなどに出場。その後、渡米し、語学学校・修士課程・博士課程を修了。早稲田大学での助手を経て、シンガポールの大学で 2 年間教鞭を取る。2008 年より現職。ラグビー男子日本代表メンタルコーチとして、2012 年より「ラグビーワールドカップ 2015」終了まで活動した。日頃よりジャージー姿で練習にも参加するなど、その地道な活動を通して、チームをラグビーWカップの勝利へ導いた立役者の 1 人。「自主性をキーワードに選手のメンタリティを変える」という荒木先生のアプローチは、自律的マネジメントを求められるビジネスパーソンにも、極めて有効なメソッドである。

■6 月 20 日（月）　＜しなやかに生きる＞

塩沼 亮潤（しおぬま りょうじゅん）　仙台市・秋保　慈眼寺 住職

「いつも明るい心で生きて行く」

標高差 1300m 超、往復 48km の山道を足かけ 9 年、春夏の入山可能な 1000 日にわたり 1 日も休まず歩き続けた。翌年には断食、断水、不眠、不臥を 9 日間続ける四無行を敢行。この 1300 年に達成者は 2 人目という苦行を為し終えた塩沼住職が、その経験を通じて見えてきた世界を語る。

1968 年仙台市生まれ。1987 年に 奈良県吉野の金峯山寺で出家得度。1999 年に大峯山 1300 年の歴史の中で 2 人目となる「千日回峰行」を満行。奈良県吉野山にある金峯山寺蔵王堂（354m）から 24 km 先にある山上ヶ岳（1719m）頂上にある大峯山寺本堂まで、標高差 1355m ある山道を往復 48 km、1000 日間歩き続けた。また、その翌年は、食わず、飲まず、寝ず、横にならずの断食・断水・不眠・不臥を 9 日間続ける「四無行」も満行され、生き仏とも称されている。

■6 月 30 日（木）　＜しなやかに生きる＞

原 晋（はら すすむ）　青山学院大学陸上競技部 監督

「東京オリンピックに向けての陸上改革」

並み居る強豪を抑えて箱根駅伝連覇を遂げたチームは従来の常識を覆す監督の下で生まれた。実業団での挫折や伝説の営業マン時代の経験を活かし大きな成果を上げている原監督が選手の自主性とモチベーションの醸成方法、東京五輪に向けた社会人選手育成計画の抱負を語る。

1967 年、広島県三原市出身。中国電力に入社後、陸上競技部 1 期生として部創設に参加し、主将として全日本実業団駅伝初

出場に貢献。故障に悩まされ、5年目で競技生活から引退。同社でサラリーマンとして再スタートし、「伝説の営業マン」と呼ばれるまでの実績を誇った異色の経歴の持ち主。そのバイタリティーは衰えを知らず、2004年、青山学院大学陸上競技部監督に就任した後は、ビジネスの経験を生かした「チームづくり」「選手の育成」で陸上界の常識を破り、2015年箱根駅伝で初の総合優勝、今年は2年連続の総合優勝を、1区から一度も首位を譲らない「完全優勝」として成し遂げた。

■7月1日（金） <変わりゆく神話をめぐって>

鎌田 浩毅（かまた ひろき） 京都大学 教授・地球科学者

「日本列島に迫り来る火山と地震の危機 —「大地変動の時代」を生き延びる—」

御嶽山、箱根山などと噴火が続いている。火山学を専門とする鎌田教授は、日本は千年ぶりの「大地変動の時代」を迎えたと予言する。取り沙汰されている富士山噴火の可能性も含め、我々はいかにして生き延びれば良いのか、地球科学の視座と対策を踏まえた話を聞きたい。

1955年東京生まれ。東京大学理学部地学科卒業。「科学の伝道師」としてテレビ、ラジオ、雑誌などのメディアで、火山をわかりやすく伝えるため、積極的に「アウトリーチ活動（最新の研究を一般の人々へ伝えるための活動）」を行っている。

「研究の成果は伝わらなくては意味が無い」「面白くなくては伝わらない」「ならば見た目から面白く」をポリシーに、マダマを思わせる真っ赤な衣装を身にまとい京都大学で教鞭をとる。ただ知識を伝えるだけではないライブ感溢れる授業は学内でも屈指の人気科目となっている。文学や歴史、芸術にも造詣が深く、「面白くて役に立つ教授」がモットー。

■7月8日（金） <しなやかに生きる>

小松 和彦（こまつ かずひこ） 国際日本文化研究センター 所長

「日本の妖怪文化 —その歴史と特徴—」

八百万の神々が住まう国には妖怪もまた数多く生息している。畏敬から娯楽の対象と変化を遂げ、科学が発達した現代でも我々を惹きつける物の怪達を生んだ文化の構造や特徴とは？文化人類学者で民俗学にも造詣の深い小松氏が妖怪から日本人の自然観や精神性を読み解く。

1947年東京生まれ。文化人類学、民俗学専攻。東京都立大学大学院社会科学研究科博士課程単位取得退学。信州大学助教授、大阪大学教授を経て、1997年より現職。民俗学の研究を通して、これまで人が生活の一部として大事にしてきていた「見えない世界」に魅せられた小松先生は、妖怪を軸に日本文化の深奥を探っている。2013年秋 紫綬褒章。

■7月13日（水） <経営の筋力と弾力>

一條 和生（いちじょう かずお） 一橋大学大学院国際企業戦略研究科 研究科長 教授、IMD 特任教授

「実践経験を通じて培った実践知としての「リーダーシップの哲学」 —リーダーシップ・ジャーニーを歩むために—」

「リーダーシップの発揮とは、自分らしくなることに他ならない」、リーダーシップ研究の第一人者一條教授はそう喝破する。日本が直面している課題を考えながら、より多くの人々がリーダーシップ発揮の旅、つまりリーダーシップ・ジャーニーへと旅立つことを熱く訴える。

1958年東京生まれ。一橋大学社会学研究科博士課程卒業。ミシガン大学経営大学院にて博士号（経営学）取得。一橋大学社会学部助教授、ボッコロニ大学（イタリア／ミラノ）客員教授、一橋大学大学院社会学研究科教授、IMD教授を経て、2007年より現職。専門は組織論、知識創造論、リーダーシップ、企業変革論。世界のエグゼクティブ教育の第一人者。講演タイトルと同名の新著では、リーダーシップを確立する様々な経験を「ジャーニー（旅）」と捉え、花王 澤田社長、カルビー 松本会長、ローソン 玉塚社長、資生堂 前田相談役など、日本を代表する12人の経営者にインタビューし、まとめた。

■7月28日（木） <見たことのない時代を拓く>

名和 高司（なわ たかし） 一橋大学大学院国際企業戦略研究科 特任教授

「CSV経営 —高収益と社会問題の同時解決を目指す—」

マッキンゼーのディレクターとして、20年間コンサルティングに従事した名和教授。「Creating Shared Value」という最先端の経営モデルを踏まえ、日本企業が次世代成長を目指す上で、社会が抱える課題を解決しつつ、経済価値を追求するためには、どうすべきかを提言する。

東京大学法学部卒業後、三菱商事に入社。1990年米ハーバード・ビジネス・スクールで経営学修士（MBA）を取得、日本人として2人目のベーカー・スカラーを授与される。1991年マッキンゼー・アンド・カンパニーに入社。ディレクターとして、日本、米国、アジアなどを舞台に、企業の成長戦略や異業種アライアンス、経営変革に取り組む。2010年6月から現職。「問題解決」と「新興国戦略」を担当。また、2014年より、30社近くの日本企業の次世代リーダーを交えたCSVフォーラムを主催している。